



東急 (9005)

次期中期経営計画はアフターコロナを見据えた戦略および課題解決が必要だろう

レーティング

中立 (前回:中立)

目標株価

1,440円 (前回:1,440円)

株 価	1,431円 (21/02/19)
52 週高値	1,984円 (20/02/06)
52 週安値	1,165円 (20/08/03)
T O P I X	1,928

P E R	-. 倍 (21/3 予)
	-. 倍 (22/3 予)
	39.3 倍 (23/3 予)
P B R	1.2 倍 (20/12)
R O E	-. % (21/3 予)

時 価 総 額	8,645億円
発 行 済 株 式 数	604,094千株

企業調査部

山崎 慎一

担当セクター:

電力・ガス・石油、運輸・倉庫

アナリストの視点

21/3 期連結営業損益は新型コロナウイルス感染拡大による需要減の影響を交通事業を始めとした各事業で受けることにより赤字と予想する。新型コロナウイルス影響は長期化することが予想され、その間にテレワークの普及など生活様式の変化が起きるとみられる。当社は21年春に新たな「中期3か年経営計画」を発表する予定となっている。「長期経営構想」の考え方は変わらず、コロナ後の新しい生活様式に合わせた不動産再開発や鉄道運賃の仕組みなど、新たな戦略構築が必要となるだろう。また、通勤ラッシュの解消など従来からあった課題をいかに解決することができるかがコロナ後の鉄道経営の要諦となる。

◆22/3 期連結営業利益は70億円と予想する

レーティングは「中立」を継続する。渋谷再開発案件からのテナント賃料増はあるものの、新型コロナウイルス感染拡大による需要減少影響を交通事業を始めとした各事業で中長期的に受ける可能性があることなどを考慮すると、現状の20年12月末実績PBR1.2倍に特段の割安感はないとみている。

岡三証券では、22/3 期の連結営業利益を70億円と予想する。新型コロナウイルス影響の縮小により、交通、不動産、生活サービス、ホテル・リゾート各事業において増益を見込む。なお、鉄道の運賃収入は6.9%増の1,035億円と予想する。

◆目標株価算定根拠

過去3年間の実績PBRは概ね1.0-1.8倍のレンジで推移している。新型コロナウイルス感染拡大影響が収束するまでに時間を要するとみられることなどから、目標株価を20年12月末実績PBR1.2倍程度となる1,440円とする。

< 連結業績 > 日本基準

(単位: 百万円、円)

決算期		営業収益	営業利益	経常利益	当期利益	EPS	配 当
19/3		1,157,440	81,971	81,907	57,824	95.1	20.0
20/3		1,164,243	68,760	70,925	42,386	69.9	記23.0
21/3(予)	会 社	931,000	-35,000	-40,000	-60,000	-99.3	15.0
	岡三前回	954,000	-15,000	-20,000	-39,000	-64.6	20.0
	岡三今回	927,000	-33,000	-38,000	-58,000	-96.0	15.0
22/3(予)	岡三前回	1,049,000	40,000	39,000	25,000	41.4	21.0
	岡三今回	996,000	7,000	-1,000	-1,000	-1.7	15.0
23/3(予)	岡三前回	1,083,000	62,000	62,000	42,000	69.5	22.0
	岡三今回	1,052,000	40,000	32,000	22,000	36.4	20.0

◆21/3 期 3Q 累計の連結営業損益は、渋谷スクランブルスクエアおよび南町田グランベリーパークの寄与があったものの、新型コロナウイルス感染拡大に伴う各事業での需要減により159億円の赤字

21/3 期第3四半期(3Q)累計の連結業績は、営業収益6,859億円(21%減)、営業損益159億円の赤字(前年同期は661億円の黒字)となった。営業損益は不動産賃貸業で19年に開業した渋谷スクランブルスクエアや南町田グランベリーパークの収益寄与があったものの、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う各事業での需要減により赤字となった。なお、新型コロナウイルス感染症による損失37億円、減損損失71億円を特別損失に計上。鉄軌道の運賃収入は32.8%減の729億円となった。定期、定期外ともに新型コロナウイルス感染拡大の影響による需要減で減収となった。なお、3Qにおける月別の鉄道運賃収入の推移をみると、10月18.8%減、11月23.6%減、12月24.8%減だった。

◆21/3 期連結営業損益は新型コロナウイルス感染拡大に伴う需要減により330億円の赤字と予想

岡三証券では21/3期の連結業績を営業収益9,270億円(20%減)、営業損益330億円の赤字(前期は688億円の黒字)と予想する。営業損益は前回予想(20年11月)から180億円下方修正。3Q実績および鉄道旅客運輸収入前提見直しなどによるもの。交通、不動産、生活サービス、ホテル・リゾート各事業とも新型コロナウイルス感染拡大に伴う需要減で減益ないし赤字拡大を予想する。新型コロナウイルス影響は、交通事業では鉄軌道の運賃収入およびバス収入の減、不動産事業は賃貸における商業施設の固定賃料の減免および歩合賃料の減、生活サービス事業では百貨店の売上減、東急レクリエーション(映画館など)の売上減、広告出稿の減少、ホテル・リゾート事業では宿泊収入および料飲、宴会収入の減少を予想する。なお、東急百貨店東横店が20年3月31日に閉店したことで年間400億円程度の減収影響があるとみている。鉄軌道の運賃収入は31.2%減の968億円と予想する。

◆22/3 期連結営業損益は新型コロナウイルス影響の縮小により70億円の黒字と予想

22/3期の連結業績を営業収益9,960億円(7%増)、営業利益70億円(黒字回復)と予想する。新型コロナウイルス影響の縮小により、交通、不動産、生活サービス、ホテル・リゾート各事業において増益を見込む。鉄軌道の運賃収入は6.9%増の1,035億円と予想する。

なお、2018年3月に発表した「中期3か年経営計画」(2018年度-2020年度)は21/3期で終了となり、次期中期3か年経営計画が21年春に発表される予定となっている。新型コロナウイルス感染拡大による影響が2021年度以降も継続するとみられることから、数値目標は設定しにくいとみられる。ただ、新宿TOKYU MILANO再開発計画などの開発案件は着実に実施されるとみられ、アフターコロナを見据えながらも大枠に変更はないとみられる。

◆ESG と株主還元

ESG については、長期環境目標として 2050 年までに事業で使用する電力を再生可能エネルギー100%で調達するとし、詳細には電力使用による CO2 を 2030 年で排出総量 30%削減、2050 年排出総量ゼロにするとしている。

株主還元については中期 3 か年計画において、安定的配当の継続とともに、さらなる株主還元の充実にも取り組むとし、大規模成長投資が一段落したタイミングでは、総還元性向 30%を目指すとしていたが、新型コロナウイルス感染拡大により業績が悪化したことで、21/3 期年間配当金は減配予想となっている。

◆新型コロナウイルス感染拡大影響について

当社における新型コロナウイルス影響は、21/3 期に入って緊急事態宣言が 20 年 4 月 7 日から 5 月 25 日まで発令されたことで需要が過去にない落ち込みとなった。緊急事態宣言解除後、需要は回復していたが、7-8 月の感染再拡大で一旦落ち込んだ。しかし、9 月の 4 連休および 10 月から GoTo トラベルキャンペーンに東京都が加わったことなどで回復ペースはやや速まった。だが、いわゆる第三波により感染者数が拡大。21 年 1 月 7 日に二度目の緊急事態宣言が発令されたことで需要は低迷している。

岡三証券では、新型コロナウイルス影響等により、21/3 期の運輸収入は定期外が 4Q(19/3 期 4Q 比)35%減、22/3 期はいずれも 19/3 期各四半期比で 1Q30%減、2Q25%減、3Q20%減、4Q25%減とみている。また定期はコロナ前比 25%減をボトムに徐々に回復するとみている。なお、4Q に減少幅が拡大しているのは北半球の冬季において新型コロナウイルスの流行を念頭に置いた。百貨店売上(既存店)は 21/3 期 4Q(19/3 期 4Q 比)55%減、22/3 期(19/3 期比)20%減、23/3 期 10%減と想定。免税売上はゼロの水準で推移するとみている。ホテルはコロナ前(19/3 期)と比べて 21/3 期 4Q67%減、22/3 期 40%減、23/3 期 30%減とみている。東京オリンピックは 2021 年に規模を縮小した形(無観客を想定)で開催される前提としている。ただ、新型コロナウイルス影響は長期化することが予想され、その間に WEB 会議の普及など生活様式の変化が起きるとみられることから、コロナ以前の利益水準への回復は少なくとも 23/3 期までには実現しないとみている。

連結セグメント情報

						岡三予想	岡三予想	岡三予想	会社計画
(百万円)	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3(E)	22/3(E)	23/3(E)	21/3(CE)
営業収益									
交通事業	200,593	207,494	211,557	213,602	213,647	152,000	162,000	179,000	150,800
不動産事業	199,018	170,124	182,574	203,363	210,175	200,000	191,000	198,000	197,900
生活サービス事業	644,127	690,229	700,352	703,183	707,995	601,000	647,000	669,000	600,700
ホテル・リゾート事業	103,859	105,502	104,104	99,925	96,125	38,000	60,000	70,000	37,600
調整額	(56,141)	(55,998)	(59,976)	(62,633)	(63,700)	(64,000)	(64,000)	(64,000)	(56,000)
合計	1,091,455	1,117,351	1,138,612	1,157,440	1,164,243	927,000	996,000	1,052,000	931,000
前年比									
交通事業	1.6%	-	2.0%	1.0%	0.0%	-28.9%	6.6%	10.5%	-29.4%
不動産事業	1.4%	-	7.3%	11.4%	3.3%	-4.8%	-4.5%	3.7%	-5.8%
生活サービス事業	2.2%	-	1.5%	0.4%	0.7%	-15.1%	7.7%	3.4%	-15.2%
ホテル・リゾート事業	8.1%	-	-1.3%	-4.0%	-3.8%	-60.5%	57.9%	16.7%	-60.9%
合計	2.3%	2.4%	1.9%	1.7%	0.6%	-20.4%	7.4%	5.6%	-20.0%
セグメント利益									
交通事業	29,279	26,706	29,002	35,161	27,018	(24,300)	(12,300)	5,000	(24,900)
不動産事業	28,093	30,591	32,357	28,365	29,000	27,800	30,400	33,400	27,500
生活サービス事業	13,438	14,651	15,999	14,546	13,411	(5,500)	6,200	11,900	(6,600)
ホテル・リゾート事業	4,488	5,671	5,103	3,213	(1,495)	(31,400)	(18,000)	(11,200)	(31,400)
調整額	181	353	456	684	825	400	400	400	400
合計	75,480	77,974	82,918	81,971	68,760	(33,000)	7,000	40,000	(35,000)
前年比									
交通事業	22.5%	-	8.6%	-	-23.2%	-	-	-	-
不動産事業	-13.0%	-	5.8%	-	2.2%	-4.1%	9.4%	9.9%	-5.2%
生活サービス事業	12.8%	-	9.2%	-	-7.8%	-	-	91.9%	-
ホテル・リゾート事業	40.6%	-	-10.0%	-	-	-	-	-	-
合計	5.5%	3.3%	6.3%	-1.1%	-16.1%	-	-	471.4%	-
鉄道運輸収入									
(百万円)	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	岡三予想	岡三予想	岡三予想	会社計画
定期	61,736	62,787	63,856	64,558	64,916	45,400	45,900	46,400	44,929
定期外	75,499	75,834	76,383	76,827	75,862	51,400	57,600	69,100	51,019
合計	137,235	138,621	140,239	141,385	140,778	96,800	103,500	115,500	95,948
前年比									
定期	2.8%	1.7%	1.7%	1.1%	0.6%	-30.1%	1.1%	1.1%	-30.8%
定期外	2.7%	0.4%	0.7%	0.6%	-1.3%	-32.2%	12.1%	20.0%	-32.7%
合計	2.8%	1.0%	1.2%	0.8%	-0.4%	-31.2%	6.9%	11.6%	-31.8%

注1：端数処理等の関係で合計が一致しない場合がある。

注2：18/3期より当社単体においてセグメント変更を実施。17/3期は当該変更の影響を遡及修正している。このため、17/3期はセグメントの伸び率を記載していない。

注3：19年10月の鉄道事業分社化に伴い利益で入り繰りが発生。19/3期は遡及修正しているため、セグメント利益の伸び率は記載していない。

出所：決算短信、会社資料、予想・作成：岡三証券

アナリスト証明

岡三証券は、当社のアナリスト・レポートに記載されているすべての見解には、各アナリストの意見のみが反映されており、過去においても将来においても、また、直接的にも間接的にも、本レポートにおける特定の推奨または意見の対価としてアナリストに報酬が支払われることはないことを証明します。

レーティングの基準

- 強 気 : 今後 6 ヶ月以内の目標株価が現在の株価を 10%以上上回ると判断される銘柄
- 中 立 : 今後 6 ヶ月以内の目標株価と現在の株価の差が±10%未満と判断される銘柄
- 弱 気 : 今後 6 ヶ月以内の目標株価が現在の株価を 10%以上下回ると判断される銘柄

目標株価の定義と未達成リスクについて

目標株価は、アナリストによる当該企業の業績予想を基に、マルチプル法や DCF 法等の岡三証券企業調査部が妥当と考える方法により算出したもので、対象期間は 6 ヶ月以内です。目標株価達成を阻むリスク要因としては、当該企業の主要市場における競合状況（企業買収・訴訟なども含む）、製品・商品・サービス需要の変動、原材料及び燃料価格の変動のほか、当該企業を取り巻く経済状況、為替相場の変動、国内外の金融・不動産市場の状況、各種規制変更、事故・災害（人災含む）、社会的責任などが考えられます。なお、これらの要因以外にも、現時点で予想できないリスクが将来的に発生し、その結果として目標株価達成が妨げられるおそれがあります。

免責事項

- ・本レポートは、投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。また、過去の実績は必ずしも将来の成果を示唆するものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。
- ・本レポートは、岡三証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成されたものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。企業が過去の業績を訂正する等により、過去に言及した数値等を修正することがありますが、岡三証券がその責を負うものではありません。
- ・また、本レポートに記された意見や予測等は、レポート作成時点での岡三証券の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。なお、本レポートは、日本証券業協会「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則」のアナリスト・レポートとして審査されたものです。
- ・岡三証券及びその関係会社、役職員が、本レポートに記載されている有価証券について、自己売買または委託売買取引を行う場合があります。岡三証券の大量保有報告書の提出状況については、岡三証券のホームページ(<https://www.okasan.co.jp/>)をご参照ください。

本レポートにおける個別銘柄に関する注意事項

- ・株価は日付日の終値。52 週高値・安値は権利落ち修正後で、各取引所の立会市場の売買立会時（前場・後場）における約定値段を用いています。
- ・上場市場は東京証券取引所の場合、記載せず、複数市場上場の場合は売買高の多い市場を記載しています。
- ・TOPIX、時価総額など、特に日付を記載していない場合は、個別銘柄の株価日付と同じです。
- ・PBR の根拠となる BPS は会社公表数値を用いていますが、必要に応じて岡三証券が算出しています。
- ・ROE の根拠となる自己資本は必要に応じて純資産から新株予約権と非支配（株主）持分の金額を控除した金額を用いています。
- ・予想 EPS は当期利益（会社計画、前回予想を含む）を記載の発行済株式数で除して計算しています。なお、払い込み前の公募、権利落ち前の株式分割等は考慮しておりません。
- ・時価総額は記載の株価と発行済株式数で計算しています。

-
- ・発行済株式数は、会社公表の数値（自己株式を除く）あるいは、平均発行済株式数を原則として用いておりますが、株式分割、公募増資、自己株買入れなど必要に応じて岡三証券の推定による計算値を用いる場合があります。
 - ・日本基準の連結当期利益は、親会社株主に帰属する当期純利益です（2015年4月1日以後開始する連結会計年度の期首から適用）。
 - ・米国会計基準の当期利益は、当社株主に帰属する当期純利益です。
 - ・国際会計基準（IFRS）の当期利益は、親会社の所有者に帰属する当期利益です。

地域別の開示事項

日本：

○金融商品は、個別の金融商品ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なります。金融商品取引のご契約にあたっては、あらかじめ当該契約の「契約締結前交付書面」（もしくは目論見書及びその補完書面）または「上場有価証券等書面」の内容を十分にお読みいただき、ご理解いただいたうえでご契約ください。

<有価証券や金銭のお預りについて>

株式、優先出資証券等を当社の口座へお預けになる場合は、1年間に3,300円（税込み）の口座管理料をいただきます。加えて外国証券をお預けの場合には、1年間に3,300円（税込み）の口座管理料をいただきます。ただし、当社が定める条件を満たした場合は当該口座管理料を無料といたします。

なお、上記以外の有価証券や金銭のお預りについては料金をいただきません。さらに、証券保管振替機構を通じて他社へ株式等を口座振替する場合には、口座振替する数量に応じて、1銘柄あたり6,600円（税込み）を上限として口座振替手数料をいただきます。

お取引にあたっては「金銭・有価証券の預託、記帳及び振替に関する契約のご説明」の内容を十分にお読みいただき、ご理解いただいたうえでご契約ください。

<株式>

- ・株式の売買取引には、約定代金（単価×数量）に対し、最大1.265%（税込み）（手数料金額が2,750円を下回った場合は2,750円（税込み））の売買手数料をいただきます。ただし、株式累積投資は一律1.265%（税込み）の売買手数料となります。国内株式を募集等により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- ・外国株式の海外委託取引には、約定代金に対し、最大1.375%（税込み）の売買手数料をいただきます。外国株式の国内店頭（仕切り）取引では、お客様の購入および売却の単価を当社が提示します。この場合、約定代金に対し、別途の手数料および諸費用はかかりません。

※外国証券の外国取引にあたっては、外国金融商品市場等における売買手数料および公租公課その他の賦課金が発生します（外国取引に係る現地諸費用の額は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、その合計金額等をあらかじめ記載することはできません）。外国株式を募集等により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

- ・株式は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による株価の変動によって損失が生じるおそれがあります。
- ・株式は、発行体やその他の者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、株価が変動することによって損失が生じるおそれがあります。
- ・また、外国株式については、為替相場の変動によって、売却後に円換算した場合の額が下落することによって損失が生じるおそれがあります。

<債券>

- ・債券を募集・売出し等により、または当社との相対取引により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。

-
- ・債券は、金利水準、株式相場、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による債券価格の変動によって損失が生じるおそれがあります。
 - ・債券は、発行体やその他の者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、債券価格が変動することによって損失が発生するおそれがあり、また、元本や利子の支払いの停滞もしくは支払い不能の発生または特約による元本の削減等のおそれがあります。
 - ・金融機関が発行する債券は、信用状況の悪化により本拠所在地国の破綻処理制度が適用され、債権順位に従って元本や利子の削減や株式への転換等が行われる可能性があります。ただし、適用される制度は発行体の本拠所在地国により異なり、また今後変更される可能性があります。

<個人向け国債>

- ・個人向け国債を募集により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。個人向け国債を中途換金する際は、次の計算によって算出される中途換金調整額が、売却される額面金額に経過利子を加えた金額より差し引かれます（直前2回分の各利子（税引前）相当額×0.79685）。
- ・個人向け国債は、安全性の高い金融商品であります。発行体である日本国政府の信用状況の悪化等により、元本や利子の支払いが滞ったり、支払い不能が生じるおそれがあります。

<転換社債型新株予約権付社債（転換社債）>

国内市場上場転換社債の売買取引には、約定代金に対し、最大1.10%（税込み）（手数料金額が2,750円を下回った場合は2,750円（税込み））の売買手数料をいただきます。転換社債を募集等によりご購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。転換社債は転換もしくは新株予約権の行使対象株式の価格下落や金利変動等による転換社債価格の下落により損失が生じるおそれがあります。また、外貨建て転換社債は、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。

<投資信託>

- ・投資信託のお申込みにあたっては、銘柄ごとに設定された費用をご負担いただきます。
お申込時に直接ご負担いただく費用：お申込手数料（お申込金額に対して最大3.85%（税込み））
保有期間中に間接的にご負担いただく費用：信託報酬（信託財産の純資産総額に対して最大年率2.254%（税込み））
換金時に直接ご負担いただく費用：信託財産留保金（換金時に適用される基準価額に対して最大0.5%）
その他の費用：監査報酬、有価証券等の売買にかかる手数料、資産を外国で保管する場合の費用等が必要となり、商品ごとに費用は異なります。お客様にご負担いただく費用の総額は、投資信託を保有される期間等に応じて異なりますので、記載することができません（外国投資信託の場合も同様です）。
- ・投資信託は、国内外の株式や債券等の金融商品に投資する商品ですので、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による、対象組入れ有価証券の価格の変動によって基準価額が下落することにより、損失が生じるおそれがあります。
- ・投資信託は、組入れた有価証券の発行者（或いは、受益証券に対する保証が付いている場合はその保証会社）の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等による、対象組入れ有価証券の価格の変動によって基準価額が変動することにより、損失が生じるおそれがあります。
- ・上記記載の手数料等の費用の最大値は、今後変更される場合があります。

<信用取引>

信用取引には、約定代金に対し、最大1.265%（税込み）（手数料金額が2,750円を下回った場合は2,750円（税込み））の売買手数料、管理費および権利処理手数料をいただきます。また、買付けの場合、買付代金に対する金利を、売付けの場合、売付株券等に対する貸株料および品貸料をいただきます。委託証拠金は、売買代金の30%以上で、かつ300万円以上の額が必要です。信用取引では、委託証拠金の約3.3倍までのお取引を行うことができるため、株価の変動により委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

-
- 自然災害等不測の事態により金融商品取引市場が取引を行えない場合は売買執行が行えないことがあります。
- 2037年12月までの間、復興特別所得税として、源泉徴収に係る所得税額に対して2.1%の付加税が課税されます。

岡三証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第53号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

香港における本レポートの配布：

本レポートは、香港証券先物委員会（SFC）の監督下にある岡三国際（亜洲）有限公司によって、SFCに規定される適格機関投資家（PI）に配信されたものです。本レポートに関するお問い合わせは岡三国際（亜洲）有限公司にお願いします。

米国内における本レポートの配布：

本レポートは岡三証券が作成したものであり、1934年米国証券取引所法に基づく規則15a-6に規定される米国主要機関投資家のみには配信されたものです。岡三証券は、米国内における登録業者ではないため、米国居住者に対しブローカー業務を行いません。本レポートで言及されている銘柄の売買注文は、アーバック・グレイソン社を通して執行いたします。

なお、本レポートは、受領者及びその従業員が使用することを目的として配信しております。

さらに、本レポートのアナリストは米国で活動をしていないため、米国のリサーチ・アナリストとして登録されておらず、資格も有しておりません。また、当該アナリストは、アーバック・グレイソン社または他の業者の関係者ではありません。したがって、当該アナリストは、米国金融規制機構（FINRA）規則の適用の対象ではありません。

その他の地域における本レポートの配布：

本レポートは参照情報の提供のみを目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。

本レポートの受領者は、自身の投資リスクを考慮し、各国の法令、規則及びルール等の適用を受ける可能性があることに注意をする必要があります。

地域によっては、本レポートの配布は法律もしくは規則によって禁じられております。本レポートは、配布や発行、使用等を行うことが法律に反したり、岡三証券に何らかの登録やライセンスの取得が要求される国や地域における国民や居住者に対する配布、使用等を目的としたものではありません。

※本レポートは、岡三証券が発行するものです。本レポートの著作権は岡三証券に帰属し、その目的いかんを問わず無断で本レポートを複写、複製、配布することを禁じます。

（2020年11月改訂）

取り扱い金融商品に関する留意事項

●商号: 岡三オンライン証券株式会社/金融商品取引業者関東財務局長(金商)第52号

●加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

●リスク:【株式等】株価変動による値下りの損失を被るリスクがあります。信用取引、先物取引、オプション取引および株価指数証拠金取引では投資金額(保証金・証拠金)を上回る損失を被る場合があります。株価は、発行会社の業績、財務状況や金利情勢等様々な要因に影響され、損失を被る場合があります。投資信託、不動産投資証券、預託証券、受益証券発行信託の受益証券等は、裏付け資産の評価額(指数連動型の場合は日経平均株価・TOPIX 等)等、先物取引、オプション取引および株価指数証拠金取引は対象指数等の変化に伴う価格変動のリスクがあります。外国市場については、為替変動や地域情勢等により損失を被る場合があります。上場新株予約権証券は、上場期間・権利行使期間が短期間の期限付きの有価証券であり、上場期間内に売却するか権利行使期間内に行使しなければその価値を失い、また、権利行使による株式の取得には所定の金額の払込みが必要です。株価指数証拠金取引では建玉を保有し続けることにより金利相当額・配当相当額の受け払いが発生します。【外貨建て債券】債券の価格は基本的に市場の金利水準の変化に対応して変動するため、償還の前に売却すると損失を被る場合がございます。また、額面金額を超えて購入すると償還時に損失を被る場合がございます。債券の発行者又は債券の元利金の支払いを保証している者の財務状態の悪化等により、債券の価格が変動し損失を被る場合がございます。債券の発行者又は債券の元利金の支払いを保証している者の財務状態の悪化等により元本や利子の支払いが滞り損失を被る場合がございます。外貨建て債券は外国為替相場の変動などにより、円換算でのお受取金額が減少する恐れがあります。これにより円換算で投資元本を割込み、損失を被る場合がございます。【FX】外国為替証拠金取引(以下、「FX」という。)は預託した証拠金の額を超える取引ができるため、対象通貨の為替相場の変動により損益が大きく変動し、投資元本(証拠金)を上回る損失を被る場合があります。外貨間取引は、対象通貨の対円相場の変動により決済時の証拠金授受の額が増減する可能性があります。対象通貨の金利変動等によりスワップポイントの受取額が増減する可能性があります。ポジションを構成する金利水準が逆転した場合、スワップポイントの受取から支払に転じる可能性があります。為替相場の急変時等に取引を行うことができず不測の損害が発生する可能性があります。【各商品共通】システム、通信回線等の障害により発注、執行等ができず機会利益が失われる可能性があります。

●保証金・証拠金:【信用】最低委託保証金 30 万円が必要です。信用取引は委託保証金の額を上回る取引が可能であり、取引額の 30%以上の委託保証金が必要です。【先物・オプション】発注必要証拠金および最低維持証拠金は、「(SPAN 証拠金額×当社が定める掛け目)ーネットオプション価値の総額」とし、選択取引コース・取引時間によって掛け目は異なります。当社の Web サイトをご確認ください。また、変更の都度、当社の Web サイトに掲載いたします。【株価指数証拠金取引】発注証拠金(必要証拠金)は、株価指数ごとに異なり、取引所により定められた証拠金基準額となります。Web サイトで最新のものをご確認ください。【FX】個人のお客様の発注証拠金(必要証拠金)は、取引所 FX では、取引所が定める証拠金基準額に選択レバレッジコースに応じた所要額を加えた額とし、店頭 FX では、取引金額(為替レート×取引数量)× 4%以上の額とします。一部レバレッジコースの選択ができない場合があります。法人のお客様の発注証拠金(必要証拠金)は、取引所 FX では、取引所が定める証拠金基準額とし、店頭 FX では、取引金額(為替レート×取引数量)×金融先物取引業協会が公表する数値とします。発注証拠金に対して、取引所 FX では、1 取引単位(1 万又は 10 万通貨)、店頭 FX では、1 取引単位(1,000 通貨)の取引が可能です。発注証拠金・取引単位は通貨ごとに異なります。Web サイトで最新のものをご確認ください。

●手数料等諸費用の概要(表示は全て税込・上限金額):【日本株】取引手数料には 1 注文の約定代金に応じたワンショットと 1 日の合計約定代金に応じた定額プランがあります。ワンショットの上限手数料は現物取引で 3,300 円、信用取引で 1,320 円。定額プランの手数料は現物取引の場合、約定代金 200 万円以下で上限 1,430 円、以降約定代金 100 万円ごとに 550 円加算、また、信用取引の場合、約定代金 200 万円以下で上限 1,100 円、以降約定代金 100 万円ごとに 330 円加算します。手数料プランは変更可能です。信用取引手数料は月間売買実績により段階的減額があります。信用取引には金利、管理費、権利処理等手数料、品貸料、貸株料の諸費用が必要です。【上場新株予約権証券】日本株に準じます。【中国株】国内取引手数料は約定金額の 1.1%(最低手数料 5,500 円)。この他に香港印紙税、取引所手数料、取引所税、現地決済費用の諸費用が必要です。売買にあたり円貨と外貨を交換する際には、外国為替市場の動向をふまえて当社が決定した為替レートによるものとします。【外貨建て債券】外貨建て債券を募集・売出し等により、又は当社との相対取引により購入する場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。外貨建て債券の売買、償還等にあたり、円貨と外貨を交換する際には、外国為替市場の動向をふまえて当社が決定した為替レートによるものとします。【先物】取引手数料は、通常取引コースの場合、日経 225 先物が 1 枚につき 330 円(取引枚数により段階的減額あり)、日経 225mini、ミニ TOPIX 先物、東証 REIT 指数先物、TOPIX Core30 先物、東証マザーズ指数先物、JPX 日経インデックス 400 先物が 1 枚につき 44 円、TOPIX 先物、日経平均 VI 先物が 1 枚につき 330 円、NY ダウ先物が 1 枚につき 880 円。アクティブ先物取引コースの場合、日経 225 先物が 1 枚につき 275 円、日経 225mini が 1 枚につき 27 円です。【オプション】取引手数料は、日経 225 オプションが約定代金に対して 0.176%(最低手数料 220 円)、TOPIX オプションが約定代金に対して 0.22%(最低手数料 220 円)です。【株価指数証拠金取引】取引手数料は、セルフコースは 1 枚につき 156 円、サポートコースは 1 枚につき 3,300 円です。【投資信託】換金時には基準価額に対して最大 0.75%の信託財産留保金をご負担いただく場合があります。信託財産の純資産総額に対する信託報酬(最大 2.42%(年率))、その他の費用を間接的にご負担いただきます。また、運用成績により成功報酬をご負担いただく場合があります。詳細は目論見書でご確認ください。【FX】取引所 FX の取引手数料は、セルフコースはくりっく 365 が無料、くりっく 365 ラージが 1 枚につき 1,018 円、サポートコースはくりっく 365 が 1 枚につき 1,100 円、くりっく 365 ラージが 1 枚につき 11,000 円です。店頭 FX の取引手数料は無料です。スプレッドは、通貨ごとに異なり、為替相場によって変動します。Web サイトで最新のものをご確認ください。

●お取引の最終決定は、契約締結前交付書面、目論見書等および Web サイト上の説明事項等をよくお読みいただき、ご自身の判断と責任で行ってください。

●本投資情報は、情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としたものではありません。本投資情報の掲載情報の正確性・妥当性等について、岡三オンライン証券および岡三証券が一切保証するものではありません。ご投資の最終決定は、お客様ご自身の知識、経験、投資目的、資産状況等に適う範囲で、ご自身の判断と責任で行ってください。本投資情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。本投資情報は、いかなる目的であれ当社の許可なく転用・販売することを禁じます。

●岡三オンライン証券および岡三証券、役員が、この資料に記載されている証券もしくは金融商品について自己売買または委託売買取引を行う場合があります。

●自然災害等不測の事態により金融商品取引市場が取引を行えない場合は売買執行が行えないことがあります。